

# Les Amis de l'Orgue de Tokorozawa MUSE



今年も暑い夏を迎えています、みなさまいかがお過ごしでしょうか？4月より所沢ミュージアのオルガニストを務めております梅干野安未<sup>ほやのあみ</sup>です。もうこのヘンテコな名前、覚えて頂けたでしょうか？実はワタクシ、今までの人生、この漢字を一度で読めた方に出会った事がないのです。電話越しに説明するのも一苦労、しかも本人はウメボシが大の苦手というオチまでついております。。『変わったお名前ですね〜』と感慨深く眺められ、出身や由来を根掘り葉掘り聞かれる事もしばしば。しかし一旦記憶の中に入ると忘れることができない名前なので、舞台上に立つ者としては覚え易くて良いとお言葉も頂きます。そしてフランスへ渡るとついに、漢字からの解放！アルファベットのみ、名前中心のお気楽な日々となり、この厄介な名字の存在を忘れるほどでした。しかしフランス語はHを発音しませんので、正式な呼び方はアミ・オヤノとなり、これまた面白いことになります。アア、梅干野安未の名前珍話はこれからも増えていくことでしょう。。

さて、そんな私はというと、8月はヨーロッパにいております。3週間でスウェーデンから阿姆斯特ダム、ブリュッセル、バーゼル、このオルガン通信が皆様のお手元に届く頃はきっとパリに着いている頃でしょうか。ベルギーで演奏会そしてパリのサン・シュルピス教会でミサのあとに演奏をさせて頂くので、そのレポートはまた次回のオルガン通信をお楽しみに！

## ☆最近の Muse☆



♪6月8日にはオルガン特別講座が行われました。今回初めて一般の方も対象としたオープン講義でしたが、当日はオルガンスクールの生徒さんをはじめスクール卒業生その他一般の方々70人近くにお集り頂きました。

オルガンのすぐ下のステージバック席に集まって、前半はミュージアのアドバイザー兼スクール講師の松居直美さんによる説明でオルガンの歴史や構造を。後半はミュージアのオルガンの特徴や作品を演奏

する上での音色の組み合わせ(オルガン用語でレジストレーションと言います)を私の演奏を交えながら、進めました。『質問コーナー』もなかなかの盛り上がりでした！

そう、オルガンという楽器は知れば知るほどハテナが出てくる、一つ分かるとまた一つ疑問が沸き上る、玉手箱の様な楽器。なんといってもオルガンは『楽器の女王』ですから一筋縄ではいきません。音色だけでなく、メカのお好きな方、物理に強い方、色々な方の心を魅了する楽器とも言えましょう！

♪7月19日の500円コンサートではオルガニストの山口綾規さんをお招きしました。バッハの「パッサカリア」といった秀作のみならず、今をときめく『アナ雪』のテーマ「Let it go-ありのままに-」やジャズの王道「シング、シング、シング」などを熱演して下さい、会場は山口さんの多彩な演奏に酔いしれました。

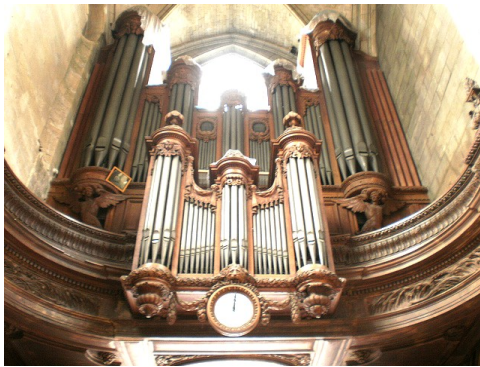
## ☆パリオルガンぶらり旅② パリ4区、前衛と向かい合う歴史的オルガン!?

今回パリのオルガンぶらり旅はセーヌ川右岸の4区、カラフルに彩色されたむき出しのパイプとガラス面で構成された前衛的な建物ポンピドゥーセンター（右写真）の横、対照的にひっそりと荘厳に建つサン・メリー教会 L' Eglise Saint Merry をご紹介。この界隈は「マレ地区」とも呼ばれ、パリのモードが集結したオシャレさんの集う所、一方ではほの暗い石畳の残るパリらしい場所。ユダヤ人が多く住むので、ひよこ豆のコロッケ・ファラフェルをはさんだサンドイッチなど異国情緒ある食事もお手軽に楽しめます。あまりに前衛的すぎて1977年の開館当時は批判が殺到したポンピドゥーセンターも今ではすっかりパリの街を彩る現代アートの宝庫と認められ、沢山の若者や旅人で賑わっています。その正面右横、その名も「ストラヴィンスキー広場」というの現代アート像のある噴水公園をぬけると、パリで最も古い鐘楼をもつサン・メリー教会に出会います。歴史と前衛、なんというコントラストでしょう！



ポンピドゥーセンター

### ☆オルガン INFO☆



サン・メリー教会のオルガン

1331年のパリで最も古い鐘楼をもち、現在残っている建物は16世紀にゴシック・フランボワイオン様式で建てられました。内部のレイアウトがかの有名なノートルダム大聖堂と同じ事から、『小さなノートルダム』とも呼ばれます。オルガンは1647年に製作され、その後クリコ、カヴァイエ・コルというフランスの著名なオルガン製作者によって改修を重ねられました。

しかし、残念な事に1947年にはその時代流行のオルガンへと手を加えられてしまいます。幸運にも昔の美しい響きも残っており、様々な修復の変遷をたどったオルガンとして重要です。

4段鍵盤とペダルを有し、全部で67ストップの大オルガン。ミュズのオルガンは4段鍵盤75ストップなので、ミュズの楽器の方が少し大きいようですね！

私はこの教会でたまにミサで奏楽しており、初めてこの教会での代理ミサを頼まれたとき、有名なオルガンなのでウキウキと教会に入り祭壇の正面を振り返るとなんと、オルガンはビニールシートに覆われているではありませんか！教会オルガニストから事前に「鳩の糞があるから驚かないでね」と言われていたものの、演奏台のある2階には更に床にもビニールシートが。。演奏台の上には鳩の糞が落ちてこない様な透明の板。黒ずんだ壁に鳩のフン、おどろおどろしい雰囲気も更に増しますが、数々の著名なオルガニストが演奏した演奏台と長い歴史を持つ楽器の響きを心一杯に味わいました。

この教会ではオルガンに関わらず、頻繁にコンサートも開かれていますので、皆様もこの界隈にお越しの際はぜひサン・メリー教会で心と足を休めてみてはいかがでしょうか。

### ☆次回のご案内☆



11月3日（月）文化の日にはなんと、フランスオルガン界重鎮、世界的オルガニストのミシェル・ブヴァール氏がミュズにやってきます。オール・バッハ・プログラムと称して皆さんもよくご存知の作品から通も喜ぶ作品まで、ほのかにフランス風のエスプリが薫るバッハをどうぞお聴き逃しなく！